

平城京左京八条一坊三・六坪 (第160次)
発掘調査現地説明会資料

昭和59年10月6日

奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部

平城宮跡発掘調査部は、8月9日から、奈良市杏町において工場建設(スギノテ
クノKK)に伴う事前調査を実施してきた。調査はまだ継続しているが、調査区
の中央やや西寄り幅約17mの中世の河川を検出するとともに、その西・東側で平
城京左京八条一坊三・六坪内の建物群や池状遺構・井戸など、さらには古墳時代の
建物群を検出したので現況を報告する。

奈良時代の遺構

平城京左京八条一坊三・六坪の坪境には、中世の河川SD101があるが、その東
岸で坪境小路の東側溝SD81(幅15m以上)を検出し、三坪内においては掘立柱建
物計15棟と池状遺構、六坪内においては掘立柱建物計16棟と井戸2基及び坪境小路
に開く門SB90を検出した。

三坪の池状遺構SD16Bは奈良時代初めから末頃まで存続する。後述する古墳時
代の河川SD16Aを利用して貯水している。素掘り、最大幅約10m、検出長約30
m、完掘していないが、深さは現在約0.7mあり、北で深くなる。南端近くには幅約
1mの排水路がある。あるいは、SD16Bは導水路で南に池が存在する可能性もある。
三坪内の建物は、大きく4時期に区分できる。多くは3間×2間で、柱間も6尺前
後と狭い。A期にはSB05・08・12、B期にはSB02・04・06・09・
10、C期にはSB01・07・11、D期にはSB13・14・15がある。A期は奈良時代前半、
B期は奈良時代中頃、C期は奈良時代後半、D期は奈良時代末に比定できる。

六坪の建物は、三坪に比して規模の大なものがある。4期に区分できる。A期に
は建物SB61・65・66・75、井戸SE79及び、不定形土坑SK100がある。遺構の
密度は薄い。B期にはSB63・69・72・76・80・95がある。SE79はこの時期にも
存続する。建物はコの字形配置で南に広場を設けている。C期にはSB62・68・74
78・96、SE77がある。基本的にはB期の建物配置を踏襲する。D期にはSB73が
ある。A～D期の年代は三坪と大差ない。

古墳時代の遺構

主に発掘区の西辺で竪穴住居跡約5棟、掘立柱建物約30棟、掘立柱塀2条、溝約
7条及び河川1条を検出した。年代は5世紀末から6世紀後半に及ぶ。

河川SD16Aは最大幅約11m、深さは15m以上で、南西方向に流れる。おそらく、
平城京造営時期まで存続したであろう。建物は竪穴住居跡・掘立柱建物とも小規模

で、大きくは3時期に区分できる。I期にはSB22・24・30・35・41・42・53・54
60、SA29・33、SD34などがある。建物や塀は河川SD16Aと方向がそろう。S
D34は幅約0.6mで、この時期の集落を南と北に区分する可能性がある。II期にはS
B18・23・26・32・40・50・55・59がある。このうち、SB58は竪穴住居跡で、一
辺約4mあり、東に竈を設けている。SB40は竪穴住居跡か掘立柱建物で周囲に溝
を続らせたものか定かでない。建物の方向はA期に似る。SD34はこの時期にも存
続しよう。III期にはSB17・21・25・27・31・36・37・45・46・47・51・57がある。
建物の方向はI・II期と異なつて南東に主軸をとるものが多い。

奈良時代の遺物

三坪の池状遺構SD16B、六坪の不定形土坑SK100を主として多量のしかも種
々の土器が出土している。特記すべきものとしては円面硯5点、水鳥形硯1点のほ
かに漆付土器・緑釉陶器、「福入」・「五」・「十」・「宅主」及び忍冬文と「神」
などを記した墨書土器が計約70点ある。SX102・103・104には袍衣壺と考えら
れる容器が据えられており、SX104からは神功開宝1点が出土した。またSD16
Bからは奈良時代後半の土馬が数点出土している。瓦は比較的多くの丸・平瓦のほ
か、軒瓦が10数点出土している。平城宮と同型のもの、平城京特有のものもある。
このほか木器はSD16Bから漆器、SB62の柱抜取穴から曲物の漆容器が出土して
いる。

古墳時代の遺物

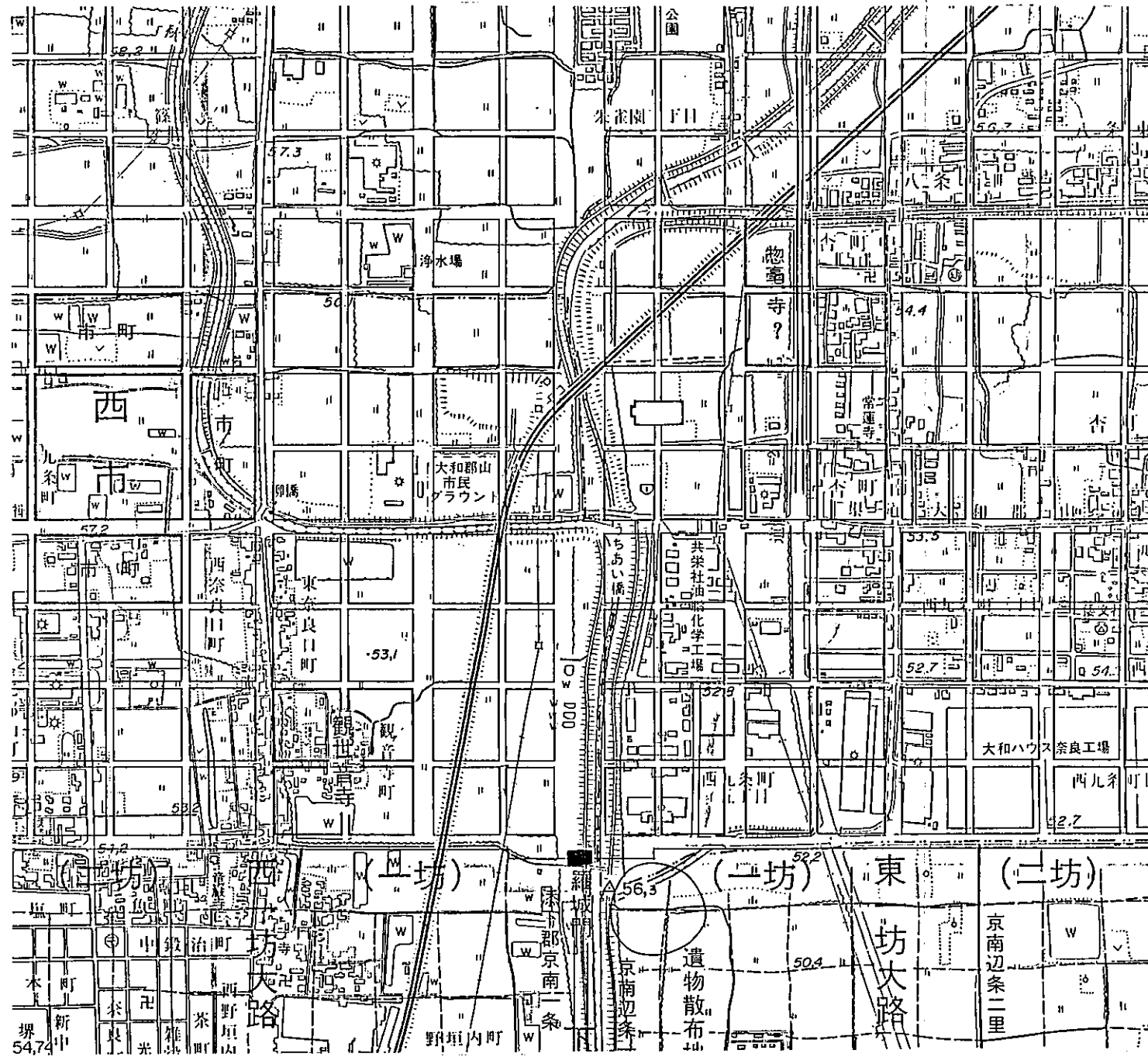
量は多くないが竪穴住居跡、掘立柱建物の柱穴及び溝から完形に近い土師器や須
恵器が出土している。また、6世紀後半の土器を含むSD98からは滑石製の紡錘車、
奈良時代のSB12の柱掘形から滑石製の有孔円板が出土している。

まとめ

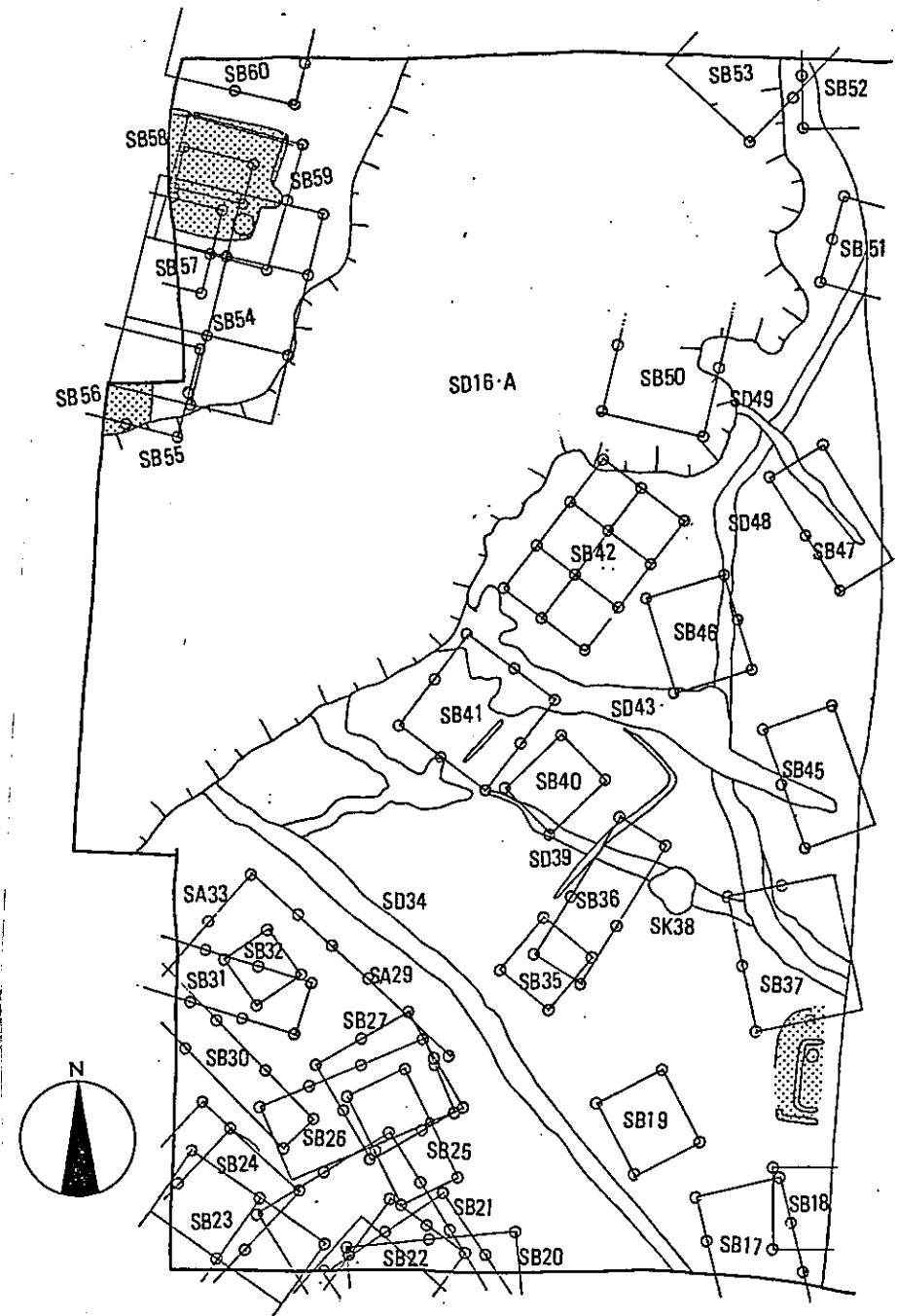
平城京左京八条一坊三坪においては坪のほぼ中央部に池状遺構SD16Bがあり、
1坪占地が行なわれていた可能性が強い。SD16Bの東岸は建物がいずれも小規模
でしかも多量の日常雑器が出土することから、坪内においては経営地域であつたと
推測される。六坪のこの地域は建物配置からみると少なくとも $\frac{1}{2}$ 町を占める。三
・六坪に開く門SB90は坪の約 $\frac{1}{3}$ に位置する。長岡遷都後、三・六坪とも建物が
建つが、数は少なく、閑散とした状況を呈する。

古墳時代の建物は、河川SD16Aに近接して設けられ、5世紀末から6世紀後半
にかけて大略3時期にわたる集落と考えられる。平城京内においては過去の調査で
古墳時代の集落がいくつか明らかにされているが、広い範囲にわたってその変遷を
把握したのは今回がはじめてである。この集落は7世紀には続かず、平城京造営時
にはすでに廃絶していたと考えられる。

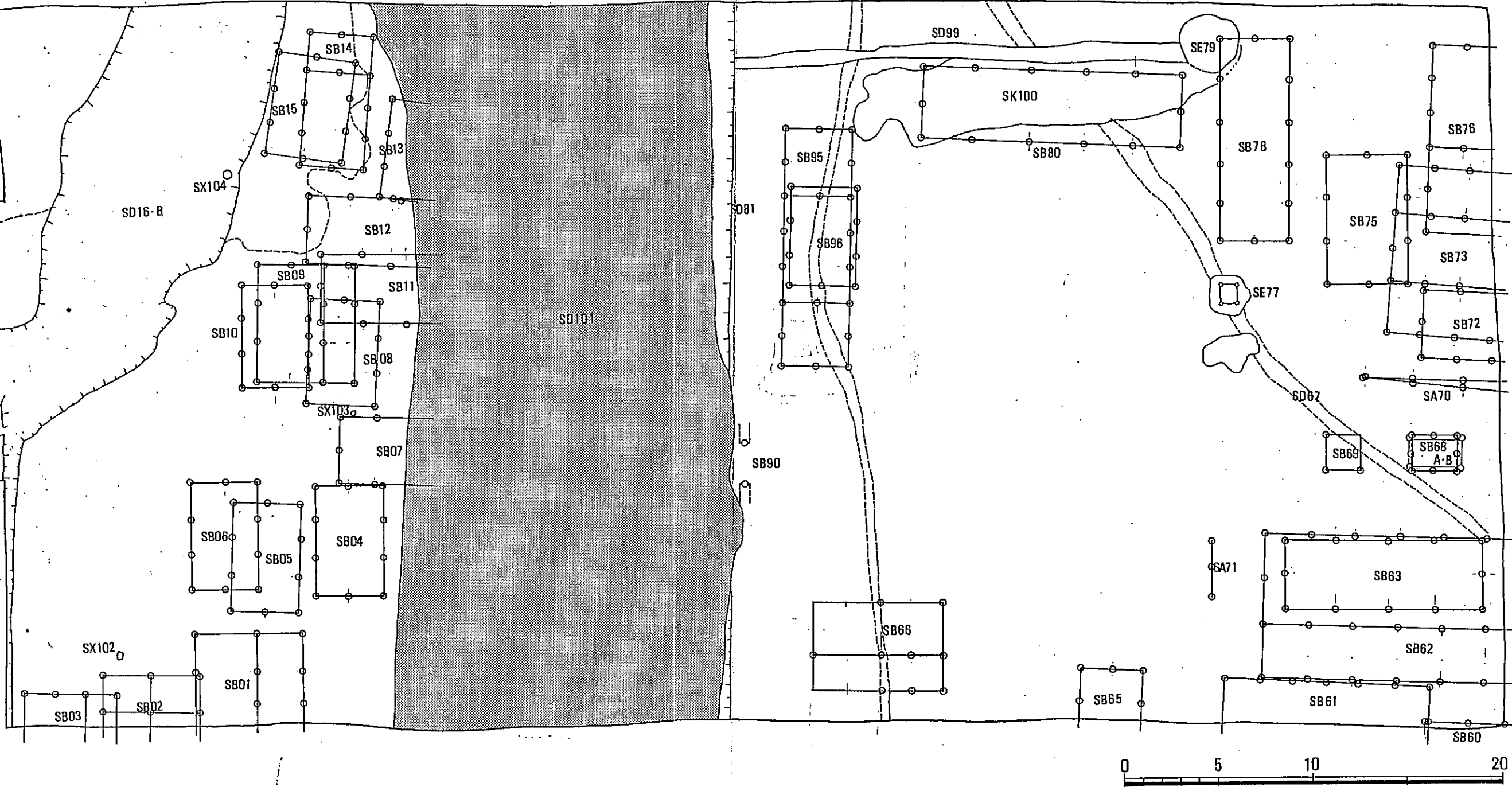
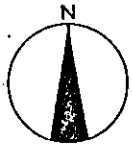
平城京左京8条1坊3・6坪発掘調査



調査位置図



遺構配置図 A. 古墳時代



遺構配置図

B: 奈良時代